

# 第77回国民体育大会 栃木県選手団 成績概況

## 1 総合成績

天皇杯（男女総合成績）	2位	2270.5点	（競技得点1870.5+参加得点400）
〔茨城大会 18位	1075.5点	（競技得点675.5+参加得点400）〕	
皇后杯（女子総合成績）	2位	1092点	（競技得点732+参加得点360）
〔茨城大会 26位	551点	（競技得点201+参加得点350）〕	

## 2 総評

栃木県選手団の成績は、男女総合成績、女子総合成績とも第2位となり、目標である天皇杯・皇后杯の獲得とはならなかった。

会期前競技では、体操競技成年男子が優勝し、成年女子、少年男子が第2位という好成績を収め、幸先の良いスタートとなった。

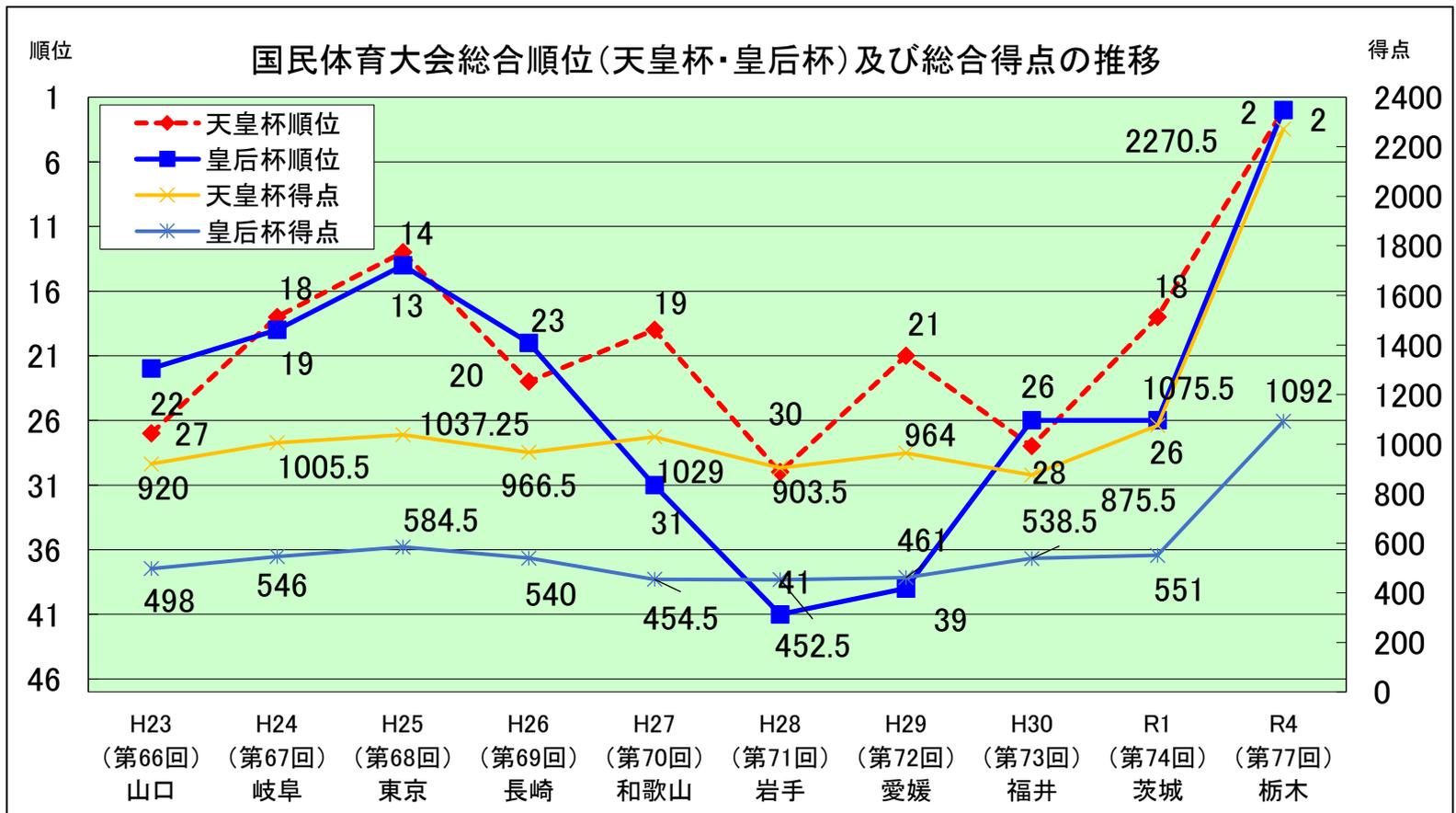
本会期序盤では、ラグビーフットボール競技少年男子が第3位、成年男子が第5位、女子が第3位となり、競技別総合第1位を勝ち取った。剣道競技では成年男女・少年男女の4種別全てで優勝するという快挙を成し遂げ、競技別総合第1位に輝いた。空手道競技では、個人で優勝した澤江優月選手を擁して組手団体が優勝し、競技別総合成績第1位も獲得した。

本会期中盤では、卓球競技成年女子が47年ぶりの優勝、レスリング競技では地元はえぬきの植木選手がグレコローマンスタイル92kg級で優勝。

本会期終盤では自転車競技、ソフトボール、馬術競技、体操競技、銃剣道競技が競技別総合第1位となった。

一方で、地元開催が故のプレッシャーからか、期待していたホッケー競技少年男女、テニス競技成年男子、バスケットボール競技成年女子などが、初戦で敗退したり、優勝を期待していた軟式野球競技や上位入賞の期待のあったバドミントン競技が敗退するなど、団体競技で予想外の結果となった。

国体の開催が3年ぶり、国体における本県の現況や他都道府県の競技力を把握することができなかったことや、新型コロナウイルス感染症の影響で計画的な強化が進められなかったこと、日本を代表する選手が想定していた以上に参加したことなどで、天皇杯・皇后杯の獲得を逃してしまった。しかし、これまで各競技団体が積み重ねてきた、指導者の養成・資質の向上や選手の発掘・育成・強化のノウハウは、今後の本県の競技力向上の糧となるものと考えている。



## ■栃木県の国体における種別ごとの競技得点と割合の推移

	平成28年度			平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和4年度		
	競技得点	割合		競技得点	割合		競技得点	割合		競技得点	割合		競技得点	割合	
成年男子	239.5	47.6%	63.2%	252.5	44.8%	57.5%	111	23.3%	42.5%	286	42.3%	62.4%	757	40.5%	66.2%
成年女子	78.5	15.6%		72	12.8%		91	19.1%		135.5	20.1%		482	25.8%	
少年男子	141.5	28.1%	36.8%	190.5	33.8%	42.5%	176	37.0%	57.5%	188.5	27.9%	37.6%	381.5	20.4%	33.8%
少年女子	44	8.7%		49	8.7%		97.5	20.5%		65.5	9.7%		250	13.4%	
男女合計	503.5	(天皇杯参加得点)	400	564.0	(天皇杯参加得点)	400	475.5	(天皇杯参加得点)	400	675.5	(天皇杯参加得点)	400	1870.5	(天皇杯参加得点)	400
女子合計	122.5	(皇后杯参加得点)	330	121.0	(皇后杯参加得点)	340	188.5	(皇后杯参加得点)	350	201.0	(皇后杯参加得点)	350	732.0	(皇后杯参加得点)	360
天皇杯	得点 903.5	順位 30位		得点 964.0	順位 21位		得点 875.5	順位 28位		得点 1075.5	順位 18位		得点 2270.5	順位 2位	
皇后杯	得点 452.5	順位 41位		得点 461.0	順位 39位		得点 538.5	順位 26位		得点 551.0	順位 26位		得点 1092.0	順位 2位	